

カツオちゃんとコンブくん

4歳児向け絵本



^{やまおく}ある山奥に、^{しろみ そむら}白味噌村があります。

^{むら}その村には、カツオちゃんとコンブくんと

^{7にん なかま}7人の仲間たちが^す住んでいました。



sample

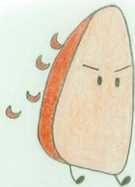


^{とくい}みんな得意なことはそれぞれ^{ちが}違いますが
^す好きなことをして^く暮らしています。

^{むら}村のみんなは^{なかよ}仲良しですが

カツオちゃんとコンブくんだけは

^{なかよ}仲良くありません。



sample

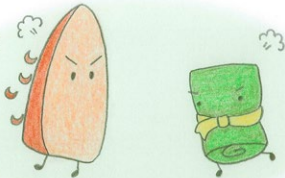


カツオちゃんは^き気が^{つよ}強く、^{がまん}我慢をしません。

コンブくんは^{やさ}優しく、^{まわ}周りに^あ合わせます。

みんなで遊んでいる時は良いのですが

カツオちゃんとコンブくん二人きりになると
どうしてもケンカになります。



sample



しろみ そ ぞんちよう なかよ
白味噌村長さんはいつも仲良くするように

い ふたり なかよ
言うのですが二人は、どうしても仲良くなりません。

まわ
周りのみんなも、あきらめているようです。

しろみ そむら とつぜんじけん お
そんな白味噌村に突然事件が起きました。

ドドドー

いきなり、大きな音とともに

見たこともないバイキングたちがやってきました。



sample



でも、よく見ると、赤味噌村の人たちです。

なんだか、いつもと様子が違います。

いったい、どうしたのでしょうか？

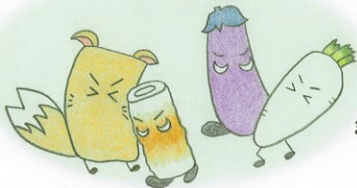
バイキングになった

あかみ そむら ひと
赤味噌村の人たちは

きゅう しろみ そむら こうげき はじ
急に白味噌村を攻撃し始めました。



sample



しろみ そそんちよう きけん かん
白味噌村長は、危険を感じたため
まだ小さいカツオちゃんとコンブくんの

ふたり やまおく に
二人を山奥へ逃がしました。

ふたりは、逃げている時でもケンカばかり。

それでも山奥のさらに、奥へ奥へと逃げていきます。

すると、大きな岩の先から輝く光が見えてきました。



sample



なんだろう？

好奇心旺盛なカツオちゃんは

その岩の先へ行きたがります。臆病者のコンブくんは怖がっています。

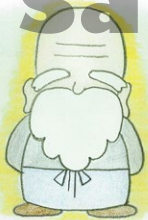
その時！ ^コ ^コ ^ゴー

と大きな岩が動き出しました。なんと！

そこには生きる伝説、お出汁師匠がいたのです。



sample

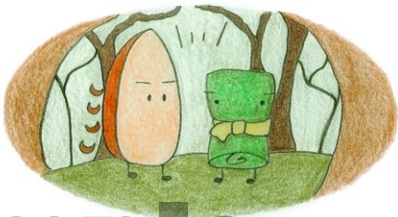


ふたりは、とてもビックリしましたが
おちち落ちて、さっきの出来事を
お出汁師匠に話しました。

あかみ そむら ひと
赤味噌村の人たちが

バイクングになったこと。

しろみ そむら こうげき
白味噌村を攻撃したこと。



sample



そして、^{しろみ そむら}白味噌村を

^{たす}助けてほしいと^{ねが}お願いしました。

^{だし ししょう}お出汁師匠は^{ふたり}じっと二人の^{はなし}話を^き聞いています。

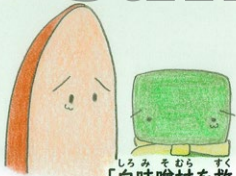
すると、お出汁師匠は、言いました。

「ワシが救^{すく}ってやれることはない」

ふたり
二人は、ガッカリしました。



sample



泣^なきたくなりました。

しかし、お出汁師匠は、こ^{つづ}う続けました。

「白^{しろ}味噌^{みそ}村^{むら}を救^{すく}えるのは、ワシではなく、君^{きみ}たち^{ふたり}二人^{にん}じゃよ」

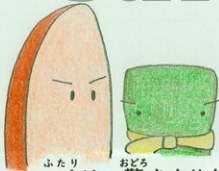
カツオちゃんとコンブくんは、^{おどろ}驚きました。

どうして、まだちい小さいわたし私たちが

しろみ そむら すく
白味噌村を救えるの？



sample



ふたり
二人は、^{おどろ}驚きよりもしろみ そむら たす白味噌村を助きたいきも つよ気持ちが強くなりました。

どうしたら、^{わたし}私たちがで

しろみ そむら すく
白味噌村を救えるの？

だしししょう い
お出汁師匠は言いました。

きみ ひとり ちから ちい
「君たち一人ひとりの力は小さいが

たが きょうりよく おお ちから
お互い協力すれば、大きな力になるのじゃ」



だしししょう つづ
お出汁師匠は続けました。

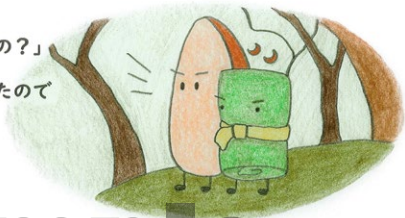
おお ちから しろみ そむら
「その大きな力で白味噌村も

あかみ そむら ひと すく
バイキングになった、赤味噌村の人たちも救えるのじゃよ」

ふたり
二人は、^{こえ}声を合わせて^き聞きました。

^{きょうりよく}「協力するって、^{なに}何をすればいいの？」

あまりにも二人の^{ふたり}息が^{いき}ピッタリだったので



sample



^だだしし^{しょう}は ^{わら}わらってしまいました。

^{ふたり}二人は、また^{どうじ}同時に^い言いました。

^だだしし^{しょう}は ^{わら}わらっている^{ばあい}場合じゃないんです！」

まったく同じタイミングで

同じセリフを言った

カツオちゃんとコンブくんが



顔を見合わせて

今度は二人も笑ってしまいました。

みなでお腹を抱えて笑いました。

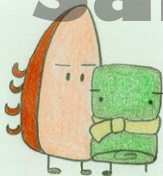
すると、お出汁師匠が静かに話しました。

「協力するのは、仲良くすることじゃ

今までは、二人とも仲良くなかったじゃろ？」



sample



「うん、仲良くなかった」

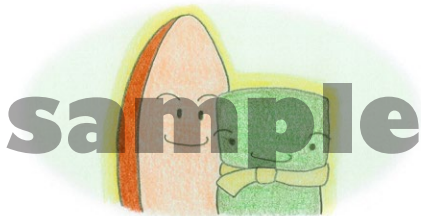
「でも今は、白味噌村を助きたいという

同じ気持ちになったら、自然と仲良くなったじゃろ？」

「たしかに、そうだね」

「^{ふたり} ^{なかよ}仲良くしていれば、ものすごい^{おお}大きな^{ちから} ^{つか}力^が使えるのじゃよ

さ、^{なかよ} ^{ふたり} ^{かえ}仲良く二人で帰って、^{しろみ} ^{そむら} ^{すく}白味噌村を救ってやりなさい」



「そう言われてみたら

^{なかよ}仲良くなったとたんに、^{げんき}すごく元気になっている！

これなら、^{しろみ} ^{そむら}白味噌村を救えそうだ。ありがとう、お^{だし} ^{しし} ^{しょう}出汁師匠」

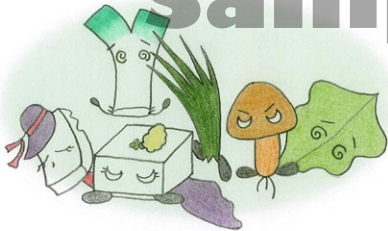
ふたり だしししょう
二人は、お出汁師匠に

れい いそ しろみ そむら
お礼を言うと、急いで白味噌村へ

かえ い
帰って行きました。



sample



しろみ そむら かえ
白味噌村に帰ってみると
みんなボロボロで今にも倒れそうに
なりながら戦っています。

カツオちゃんとコンブくんは

みなぎる^{ちから}力^{つか}を使って

みんなの^{たたか}戦い^とを止めました。

sample



ふたり^てと^あ二人が手を取り合って

なかよ^{おど}おど^{はじ}仲良く踊り始めると

あたりいっぱい^{おうごん}に黄金のシャワーが降り^ふ注^{そそ}ぎました。

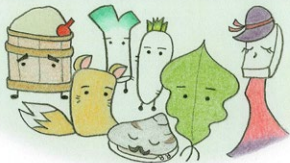
その^{おうごん}黄金のシャワーを

あ
浴びたみんなは

みるみる^{げんき}元気を^と取り戻して^{もど}いきました。



sample



しろみ ^{そむら}
白味噌村の人たちも

あかみ ^{そむら} ^{ひと}
赤味噌村の人たちも

ひか ^{かがや}
光り輝きました。

さっきまでの戦^{たたか}いがまるでなかったように

みんなで一^{いっしょ}緒に輪^わになって

おど踊りはじめました。



カツオちゃんとコンブくんは

よりいっそう嬉^{うれ}しくなって

もっともっと、仲良^{なかよ}しになりました。

いしだえほん No.0034

カツオちゃんとコンブくん

2018年3月19日 初版発行

文 jack - ANJ(ジャック - 天^{巻物のしやく}邪城)
イラスト Ai - Caprice(アイ - カプリス)

印刷・製本・発行 石田製本株式会社
〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31
TEL 011-676-4520
<http://i-bb.co.jp/>

sample

©2018 jack - ANJ / Ai - Caprice / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしませんので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909377-33-3

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehon/>

ISBN978-4-909377-33-3
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税



9784909377333



1928771012000

